

『女性の視点から避難所を考えませんか?』第12回 レジュメ

- ◆開催日 平成28年4月27日(金) 10:00~12:00
- ◆場所 四谷ひろば B館1階 大人のサロン
- ◆参加者 四谷特別出張所所長、四谷特別出張所担当
四谷ひろば避難所協議会会長、四谷四丁目町会副会長
地域住民 13名 計17名

10:00 開会

今回は、熊本震災のこともあり、危機管理課の方は欠席となりました。また、四谷特別出張所の所長が異動されて、新しい所長が今日をご参加くださっています。

四谷特別出張所長：活発な意見交換がなされていると聞き、今日は勉強のためにも参加させていただきました。

資料確認：レジュメ、備蓄物資一覧表(最新版)、今年度版の防災用品あっせんのご案内チラシ、メンバーの方より新聞の切り抜き(困ったら簡易トイレの記事/新聞紙とポリ袋で作る展開図入りでわかりやすいもの30枚提供)別のメンバーより、簡易トイレとウェットシャンプー(シートタイプ)のサンプル提供

10:05 情報交換会

1. 宿題について

前回、各ご家庭の備蓄品や連絡方法などを記載していただく用紙を配布しました。今回、4名の方から先ほど預かりましたので、まだの方は、早めにご提出ください。次回の集まりで、集計したものを用意したいと思います。

【ご意見例・家庭内備蓄について】

「二人暮らしで、それぞれが背負える分量で人数分用意している」

「備蓄は賞味期限のことがあるため、あえてしないで、普段のストックを回している。

我が家は、ストック用に買った食品も目先の緊急食糧として食べられてしまうので、ストックにならないのが現状です。」

【ご意見例・災害時の連絡方法について】

「災害伝言板の利用、または四谷ひろばに集合。ただし、災害伝言板の使い方が、高齢な方には難しいのではないかとのご意見」

携帯電話でも同様のサービスがあるので、自宅か携帯かの統一が必要かもしれません。

2. 熊本震災の現状から

熊本震災で連日テレビの報道から、いろいろなことを知るにつれ、今までとはニュースの見方が変わったのではないのでしょうか。「いままさに、この四谷で地震が起きたらと置き換えて考えると、まだまだ検討しておかねばならないことや、熊本と四谷での避難についての違いを感じました。皆さん、同じように頷かれていますし、今回の意見交換では、この震災について、違いや反省、今後の課題など、いろいろな角度で、とにかく、どんどんポストイットに記入していき、それから意見交換をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。(2グループに分かれて)

10:20 茶話会 & 意見交換(熊本震災の現状から) ※各グループごとにメモの発表と意見交換

[人材]

- ・大学生や中高生などの活躍が目覚ましかった。人の役に立つことに対して積極的な発言があるであろうと想定して、ボランティア等の受入れ体制を避難所として考えておくことよいか。おにぎりを握ったり、仮設トイレに流す水を運ぶことや車の整理をしている映像があった。

[備え]

- ・90リットルのごみ袋を用意。ごみ袋に穴をあけて、頭からかぶって保温もできる。便利。
- ・自分の身を守るために耐震化も重要。+家具転倒防止等。
- ・非常用品を玄関に入れてすぐの場所に置いておく。取り出しやすいように。
- ・ブルーシート。トイレの目隠しや屋根の雨漏り対策ほか。利用用途が大きい。

[避難所]

- ・日本語もわからない外国人にもわかるようなイラストなどを活用した表示や掲示。
- ・テント、段ボール、段ボールベット、段ボールトイレ ※2日我慢すると行政の支援が。
- ・区画整理とか、通路をつくる
- ・班を作る(20名位のチーム編成) 水やおにぎりなどの配布等で、リーダーがそれぞれにいるとスムーズに分配もできると思う。
- ・プライバシーの保護
- ・表示・掲示関係の充実。事前に必要そうな貼り紙を作成し、パウチして保存しておく。立入禁止、女性専用、矢印、など

[要望]

- ・熊本と異なり都心は高い建物が多すぎる。低層のマンションの制限をもっとかける。
- ・ガスメーターの説明書で、復旧の仕方が書いてあるが、高齢者には見えづらいので、大きくわかりやすくしてほしい。
- ・人口が密集している。被害が拡大化しやすい。

その他

- ① ワンポイントトイレ講座 担当：消防団所属メンバー

●阪神淡路大震災直後に購入した災害用トイレを持参。木製組み立て式。組み立てておもちや箱等、平常時でも使用可の便利さで購入。段ボール製のものもあったが、当時の製品は湿気に弱そうだった。現在は改良されている。

●以前、災害時に通常使用できなくなった便器は水を取り抜いてからビニール袋をかぶせないで交換時にビしゃビしゃになってしまうという話をしたが、先日受けたトイレ研究所の講座では「便器の水を抜いてしまうと、下水の臭いがあがってきてしまうので、ビニール袋を二重にして上側1枚を交換して使用」との事。訂正

●避難所のトイレは、避難所として運営スタートする時点で一度使用禁止にしてテープ等で入口をふさぎ点検と準備をする。便器のヒビや水が使用できない状況であれば、便器にビニール袋を被せ、使用済みのトイレトーパーを捨てるビニール袋等を準備する。水が流せる状況であれば、流すための水や道具を準備する。

●トイレ専用のスリッパ等に履き替えて使用する事も大事。トイレで使用した靴のまま、避難所内を移動するのは衛生面で問題。二次災害の危険有り。熊本の避難所、ノロウイルスが発生。

●熊本地震のように、大きな余震が長引けば予想をはるかに超える人が避難所に集まる。

※重要なのは、避難所に集まった人全員にトイレの使用法に理解と協力をしてもらおう事！！子供～高齢者・外国人・障害をお持ちの方等、幅広く周知する為にはどうするか→イラスト等を使用した張り紙を事前に準備等（以上トイレ研究所主催講座参考にて）

② 災害時の対応等周知をしたいがどうするか。の意見交換

●有効な共助の為に、町会の方々だけでなく住民の方々を含めた避難所訓練の必要性を強く感じる（災害は地域全体にやってくる）

●災害時活動を目的とした訓練を重ねている地域の消防団員だが、都内震度5以上の地震が発生すると連絡がなくても参集が決められている。消火の為に資機材を支給されているのは、消防署と消防団だけである。その為、発災後の消火活動が最優先となる。

自分自身・家族・地域周囲の安全確認後の参集となるが、途中で住民の方から依頼があっても全てに対応できない場合もある。

平常時から、住民の方々の理解や協力を得る事が大切であると改めて認識している。

●避難訓練を通して、初期消火や応急手当を体験してもらおう事が大切。災害時の被害を少なくするためにも、もっと多くの人に避難訓練に参加をしてもらいたいと思う。

四谷四丁目副会長が作成している資料は、とても身近でわかりやすく具体的にまとまっている。区の一般的な事例で書かれているものより、手にとりやすい。特に今は、熊本震災のこともあり、興味があるはずである。このような身近な資料を刷り増しして、住民全体に配布できたらと考えるが、町会費での刷り増しは町会民対象に限定されるだろうから、幅広く刷り増しするために、区から広報費の助成はできないだろうかという意見があった。

課題：だれがどうやって、普段コミュニケーションのない人に配布するか。また、町会によって、活動の違いがあり、一律には難しい。四丁目ではホームページで見られるようになっている。まずは、そのネットについて広報をしたり、実績を積み重ねていくことが大事である。その結果、ぜひ、たくさん刷りましょう。ということにつながれば助成金も得やすい。

周知：レディス会の議事録を参加者名記載なく、内容のみを四谷ひろばのホームページに閲覧できるようにしたい。現在、避難訓練でパワーポイントで発表したものが見られるようになっている。まずは、それが見られるということを周知していくことをしたい。広報誌四谷の7月号の記事を書くことになっているので、A5サイズにまとめて、まずは周知していきたいと思う。そこから、町会民でない人たちの意見を聞くこともできる。まずは、第一歩を踏み出していくことで、はじめましょう。

○身近なところで、ご近所さんのネットワークでロコミしていくことも大事なのでは？
孫のお母さんとかにお話しをしたりしている。⇒それも大事だと思う。

11:50 閉会

避難所協議会会長：レディス会が回を増すごとにレベルアップしていることがよくわかる。身近なトイレの問題から始まり、自分たちでできることなどをテーマに話し合ってきたが、組織的な話へとステップアップしている。レディス会だけではなく、町会や区の考え方も踏まえた上で、組織的な動きをしていくところまで進んできている。私は、四谷地区協議会の会長も引き受けているが、この地区協議会は、町会とはまた違った角度から地域のことを考える団体である。町会は隣近所で助け合うコミュニティからスタートしているものであるが、この生い立ちとは似ているようで違う。そして、四谷地区は、この二つの団体がうまく連携をしてうまくいっている。防災の面から、事業別に取り組みが必要だと思うが、町会同士が連携を図るには、男性だけでは建前もあつてか、なかなか難しいこともあるので、女性の視点は大事なものだと考えている。

四谷特別出張所長：活発な意見交換に感心しました。備蓄倉庫も先ほど見学させていただきました。すっかりとまとまっていて、表示もされており、皆さんの努力の賜物と感じました。災害対応は、訓練以上のことはできないと言われます。実際の震災が起こると日ごろの訓練以上のことはできないので今回のような勉強会はとても役立つと感じた。今後ともよろしく願いいたします。

四谷特別出張所担当：今年で、四谷特別出張所に来て4年になります。今年も四谷ひろば避難所運営管理協議会の担当となりました。11月にまた訓練を行うことになるかと思えます。できるだけ関わり、区として発信できることはお手伝いしたいと思っています。今年もよろしく願いいたします。では、前回、宿題となっていた「我が家の備蓄品と連絡体制」について未提出の方は、早々にお願い致します。次回にはまとめておきます。今回のことで変える方は、訂正したものの再提出も受け付けます。

【次回、レディス会 6月16日(木)10:00～ 大人のサロンにて】